

## 伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針の見直しに係る 総論部分及びさまざまな人権課題に関する現状と課題の意見聴取概要

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見
総論部分	<p>大切なものがこの中に載ってない。特に教職員の研修、日常の暮らしの中で、差別事件とか人権問題が起こった時に、そのことを受け止めて、何が大切なのか何が問題なのかを見抜いていききっかけだと思う。</p> <p>私がずっと言ってきたのは市内の小学校の子どもが登校中に見つけた落書きについて、その学校全体の子ども達、教師、保護者が学習になる問題なのに、そのまま何の経過というか、そのことを題材にしながら子ども達が教師がどう学んだのかという報告が全くない。その当時、別の子どもの落書きあったが、そのことについても何も報告がない。その子とどう向き合って教育現場で何が大事なのか、材料ではないのか。</p> <p>結局、何かがあってその事の分析をしたり、色々深く関係者から話を聞き取ったり、聞かせてもらったりすることで何が大切なのかが見えてくるのに、そこをしないで、ただ落書きがあったので見に行く。見るだけでは意味がなくて、それを通してそれぞれが解放されていく材料ではないか。子どもであっても大人であっても。そこを私たちは期待したい。落書きがあって一緒に走ったら後まできちっと聞かせてもらおうシステムをちゃんと作ってほしい。そこには色々な手立てが必要な人も子もいるだろうし、そういうことが放ったらかし状態で私達には後が分からない。これから作ろうとする総論の中にはきちっとその辺のことをしていかなないと作ったものが私は活きないと思う。</p>
	<p>この総論、新しい視点が色々入ってていいなど、非常に新鮮に感じる事が沢山あった。法的な人権課題の対応であったり、人権擁護に関することでも、市民に身近な相談、それから相談に繋がる居場所づくりとかそれも新しい視点で素晴らしいなと思った。同時に教育と啓発が特に教育が課題だと、教育といえば就学前教育、小中学校の教育、社会教育、家庭教育と分けて更に具体的な方法性が示されているが、ここは非常に抽象的というか、ポイントは命の尊厳に触れるとか自尊感情に育成するという事、これは学校教育の一番基本となることに触れられているが、落書きへの対応とか、あるいは同和教育に出会って一生懸命やってこられた先生方がみんな退職してしまい、若い人が駄目だと言ってる訳ではないが、教育の原点的な部分が学校現場で疎かになっているのでは、その中で落書きへの対応も非常に希薄になったり、不十分な点というのもあるんじゃないかと思っている。だから、落書きの件も含めて、教育に関する具体的な方策というか、これは細かいことを出す場ではないけれど、何かもう少し突っ込んだ方向性があるんじゃないかとは私は思った。</p>
	<p>例えば、人権教育を進めていくにあたっては市民の参画と協働がうたわれているし、それから庁内の推進体制も大事になっていくと思うので関係機関との連携については、関係機関と課題を共有し合って、それを具体的施策定、評価そういうようなものや情報が共有できるような体制が大事だと思う。この総論の中にどういう風に込めることができるか分からないが、こういうものを推進していく上ではそういう視点も大事になっていくと思う。</p>
	<p>例えばいじめ、いじめる子どもは人権侵害をしており、いけないことだが、実はいじめている子どもも色々な課題、背景を抱えていることがある。そういうところまで深く突っ込んで皆が考え合う、情報を共有し合うことが、それぞれの教室、学校で起こっている色々な問題への対応のヒントにもなる。学校で起こった問題を先生方或いは行政も含めて、分析し合って情報を共有し合って、それを教育とか行政施策に反映していくことが大事。そういうことを方針の中でそういう大事さをどこかでうたわれて、それが浸透していくようになったらありがたいと思う。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
女性	1	方向性の中に、男性の働き方の影響も大きいと思うので、「地域社会や職場における」のワードを入れた方がよい
子ども	1	<p>学校の教育の方がかなり希薄になってきているのではないかと、正直なところその通りかなと感じている。特に若い先生方は、色々な人権課題が次から次へと出てきて、新しく入ってくることから、どうしてもそっちの方ばかりに目を向けがちになるところがあるかなと。それ以前に、今までのところに来るまでに、同和教育が果たしてきた役割、そういったものが、なかなか受け継がれていない部分が散見されているのかなと感じている。ただ、性自認の部分であるとかLGBTの問題等々、学校現場に当事者がいる学校においては、かなり突っ込んだところまで研修も深まっていくが、周りの学校はどうなのか、いないところはどのようにしているのか、という辺りは少し気になるかなというようなどころもある。</p> <p>子どもの人権の部分に関しては、どうしてもいじめ問題が非常にクローズアップされるどころ、いじめのない学校は正直なところないだろうなと思っている。それだけに子どもにしっかり目を向けるという子どもの見方というか、やはりベテランの先生から中堅の先生、中堅の先生から若い先生へと伝わり方、それがそれぞれの学校の伝統、あるいは、伊丹市全体の教職員が子どもを育てていく一つの根底になっていくものが、どこかで何か途切れているような、特に中堅層の40代のところが非常に人数が少なくなっているのが一番大きなポイントにもなっているのかなと感じている。先生方も研修でしっかり人権に向き合っているが、やはりその辺で理解ができていない、ステレオタイプ的というか、今だったらネットで何でも調べてしまう。実地に行って実地で感じてくるのが非常に少なくなっているのかなと、そういう課題も見えてくるのではないかなと思っている。特に子どもはどうしてもいじめの方に行くが、貧困問題など、そういったところもしっかり目を向けていかないといけない。それを解決していく一つの手立てとしては、子ども達にしっかりと学力をつけることも大切になってくるのかな、どうしてもつぎの中学校から高等学校へ行く時にひとつの課題というのが貧困家庭には非常に課題があるのかなというところも見えてきたりしている。学校の中で一番課題かなというのは、若い先生方がしっかりと人権意識を持っていただくということが大切になっていくのかと思う。</p>
	2	<p>虐待の事も色々あったり、子どもの方も親には言えないが聞いて欲しいことがあるとか、それぞれの立場であると思うが、子育ての仕方でも悩んでいませんか、しつけでも悩んでいませんかとか子どもは子どもで言いたいことがあるのではないかと、誰かに聞いて欲しいと思っていないか、という事で市の担当所管課の方に相談してくれたら相談に乗るよという啓発ステッカーが貼っていた。ここでも課題のところでもどのようにして、周知徹底してもらえるのか課題としてあげられ、今後の啓発にもたくさん上がっているが、見る人は見るし、目が付かない人はどこに相談しようと思いがらどうしようもなく日々を過ごしていると思うので、いかに周知徹底させるかを市の方も色々積極的に取り組んでいると思うし、学校でもいろんな担当者会なり、校長会なりいろんな会でこんなところに相談したらいいねとかこういう方法があるねと一人ひとりの子ども、保護者、しんどい人に声を届けたいが、うまく伝えていくことが難しいと思っている。</p>
	3	<p>いじめの問題も一時件数が増えた。学校が荒れたのではなく今まで見逃していたことや伏せておいたものが表に出るようなこれも一つの教育の施策の成果だと思う。</p> <p>家庭で教育課題を見つけるという方向になっているが、なかなか見落としがある。伊丹もできているとは決して思わない。緊張感持ちながらやってもらっている。いずれにもそこには大きな教育課題がある。冒頭の話につながるの大事に取り上げていくことが大事である。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
高齢者	1	<p>非常によくまとめてもらっているのでは特にはない。課題の最後、世代を超えてというところの心のバリアフリーを促進。世代を超えて地域との繋がりを支えようというのを新しく入れてもらっているので大変ありがたいと思う。その中で1点、高齢者の権利擁護の推進の4行目、認知症高齢者を始めとする、地域で自立した生活を送れると入っていますが、全体の資料を見ていると、ひとり暮らしの高齢者の増加傾向を経て地域からの、孤立等新たな問題への対応をしましょうという事なので、地域でと言うより地域から孤立することなく自立した生活を送れるような文言を入れてもらえたらと思う。</p>
障がい者	1	<p>私は視覚障害で、視力を失って20-30年ぐらいになる。障がい者の差別も色々あるが、今は障がい者全体では障害者差別解消法もでき、5月から行政じゃなくても一般でも義務化されたので、それをいかにして市民の皆さんに障害者差別を浸透させていくのが課題かなと思う。</p> <p>会議で色々なことを言われるが実際に街の中に行くと、最近だいぶ減ったが、中には今でも盲導犬同伴での来店が無理なことや、病院に行く時に困ったりするような話を聞いたりしているが、障害者差別解消法ができて合理的配慮が義務になったが、あれをどういう風にして、一般の方に分かってもらえるのかというのが課題かなと思う。</p> <p>伊丹の場合にはアイ愛センターという障がい者のセンターがあるので、そこを拠点にして活動しているが、なかなか交流の場というのが、独自の交流はあるが、一般の方との交流はなかなか難しいところがあって、そこら辺が障がい者でも外観で見ても分かる方と、内部障がい者の方もあるので、ぱっと見て分からない、判断がつかない場合もあると思うが、僕らも積極的に出ていってはいるが、もう少し交流があるといいかなと思う。過去に学校の方でも、小学校3~4年生辺りを中心に社会福祉学級でお話しさせてもらって、学校の先生とも話したこともあった。熱心な先生はよくされる学校もあるが、先生が代わって転校したらもうないとか。転校先でその先生からお声がかかったりなど、そういうことがあった。今現在続いているのは阪神昆陽高校は毎年福祉授業で行かせてもらっているような状況である。もう少し合理的配慮が皆さんに分かってもらえると僕らももっと動きやすいのかなと思うし、最近はコロナもあるが、県民運動として声掛け運動させてもらっている。遠慮なく声を掛けていただいて、お互い様みたいな感じで生活ができれば一番いいかなと思う。</p>
	2	<p>聴覚の方で伊丹は手話言語条例を一昨年制定して、大きな一歩だと行政でも宣伝していたが、その条例が施行されて初めの頃は市長も手話で話をされていたが、なかなか引き継がれていないと思う。せっかく条例を施行したのにもう少し積極的にさまざまな課で活かすことを基本方針にもうたって、考えて活かせるように続けていかないと。思った。</p> <p>AIも進んでいて話したら字幕になる機械も出てきているので、今すぐにはお金もかかるので難しいと思うが、積極的に活かしてほしいとも思う。</p> <p>障がい者問題について考えましょうと学校でいうと、いろんなところの資料を引っ張り出してきて、感想を言いたいとなりがちですが、実はあなたのすぐ横にも障がいのある人は色々な人がいる。自分の身近に引き寄せて考えることが出来たらいいと思う。いろんな問題はニュースにも出てきているので、その都度関心が持てるようにしていけばいいと思う。</p>
	3	<p>私も学校の教員をしていた時、障がいを持った子をクラスに登園するという事を何回かさせてもらったが、子どもは柔軟で溶け込んで五感で、全身で障がい者の問題に理解していく。大人は学ぶべきだと思う。</p> <p>委員の話の中にあっただよように、情報化の時代で、インターネットで情報を取ったものをうのみする。身近に障がいを持った人はたくさんいる、というふれあい、接点を行政も進めていくことを大事にしてもらいたいし、学校現場もさらに深めてもらいたいと思う。知らないことが多すぎる。知る事、知らないことについては合意的配慮もできないわけだし、差別の解消には繋がらない。これは同和問題も同じ被差別にできるだけ寄り添う事によって課題が見えてくるわけで、すべての人権に繋がる。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
同和問題	1	同和問題では、特に教職員の研修も大事になってくると思うし、過去に先輩の方々が気づき上げてきた同和教育の原点的な所を触れるような研修も教職員には大事かと思う。
	2	部落差別解消推進法ができて5年ぐらいなるが、地域でこれを学習したというのはあまり聞いたことがない。法を知らせるために人権フェスティバルでパネル展見るが、他にどこかでこの件について学習したというは聞いたことがないので地域の自治会などでこんなことやっているのか、してくれてるのか、せつかく法律が出来たのに知らない人が沢山いるのではないかと思う。私達も人権教育指導員をしており、面会でこういう法律があるんですよ、法律があるという事はまだまだ部落差別は無くなっていないという事を言うが、なかなか周知されていないと思う。
	3	新任職員研修の中で、自分の体験を話させてもらったが、若い職員には学生時代に聞いたことはあるような気がしますという答えが出てきた。同和問題を自分の事としてとらえている人は少ない。学習したような気もしますというぐらいで頭に残っていない。真剣に色々考えて自分の意見をちゃんと伝えてくれていました。グループ協議だったのだが、自分の想いをしっかり話していただいている。若い人は結構本音で物を言っている。管理職の辺りはどうなのでしょうかとというのが私の疑問である。管理職や高齢の方は十分同和教育を受けていると思うが、まだまだ偏見を持っている方がたくさんいると思うので、管理職の研修も新任教師だけではなく必要だと思う。
	4	新任教員の研修を毎年担当しているが、教職員も、新人の役所の職員もしっかり本音を語ってくれるし、若い人たちはやろうとする気持ちがある。部長級や大事な位置で指示を出す人の人権感覚をしっかりして欲しい。部長、課長級たちにしっかりした研修をしてほしい。
	5	総論にも職員の人権意識の更なる向上で、管理職の人権意識の高さを求められているという事も書かれている。それに対応する研修を方向づけしてくれているので、具体的になるようにしてもらいたいと思う。
	6	部落問題について特に法の周知。現状は周知が不十分であるということで一つお願いしたいと思う。若い人の研修は出来ているが、例えば、同和対策事業による団地の建設について、これが歴史的にできたという事を行政職員として学ぶ必要がある。その背後にあるもの、人との出会いについてなど、研修の工夫は学校にも言えるが必要だと思う。

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
外国人	1	<p>外国人について、よくまとまっていると思うが、これから外国人は減ることがなく増えていく。外国人が増えるという前提で、いろんな施策を進めていくという事で外国人の支援や相談する常設の基幹を作って欲しい。子ども発達支援センターや、高齢者の場合は社会福祉権利擁護センター、伊丹市障害福祉センター、障害虐待防止センター、同和問題では人権啓発センターそれぞれの課題を持った人たちの安心して集える居場所、それを専門的にする支援センターがある中で、外国人が増えるので外国人の支援相談センターの常設が欲しいという話をした。審議会ではそれが出ていなかった。どこでそれが消えてしまったのか、行政側ができるようなことをピックアップして消えているのかなど勘繰りがあった。そういう場ではあると言って、そうでない。ちゃんと審議会で伝えるようなことが必要かと思う。</p> <p>10年見越しているので、外国人の相談常設センターが欲しい。作るような方向で審議会に提出して欲しい。課題については、「歴史的経緯を有する外国人」という表現で、果たして分かる人がどれくらいいるのか、例えば、旧植民地支配の人たちやオブラートに隠す配慮があったかもしれないが、啓発擁護の方向性のところでは、「本市の歴史的な背景を踏まえて、本市の歴史的な背景」とは分かる人には分かるが、伊丹市飛行場工事に朝鮮人労働者が従事したという歴史的な背景を分かるように市民に伝えて欲しい。</p>
	2	<p>支援センターの話は、前回もでており、ここに具体的な名前を上げるのは難しいが、方向に結びつくような話になればよいと思う。</p>
性的指向・性自認を理由とする人権侵害	1	<p>方向性の中に、「ここいろ」のワードを入れた方がよいと思う。</p>